

学習者の内面の表出を図る社会科授業のPDC Aサイクルの実証研究  
柴山秀範教諭「くらしを守る人々－堀川の安全－」の場合

①授業の解釈－授業検討会を手がかりに－

ア 授業者の振り返り

52-53 今日からやっぱり自分のくらしをもとにして、もう一回歩みを膨らませていくような  
56 現実味というか切実感がない  
57-58 子どもが経験したこととか、その子しかいえない出来事を 引き出そう  
60-61 追究をしっかりと支えきれていなかった、太らせていなかった  
92-93-95 経験に裏打ちされた考え、 つながっていく  
348 自分の追究というものを、取組を充実させてあげなければいけない

子どもの経験を引きだす、現実味、切実さ、子どもなりの追究に重点を置いている。

支援者としての教師

イ 指導助言者の解釈

184-185 徘徊して、這い回って終わりましたという話になります、具体的なお子さんをと  
りあげて  
253-254 警察署の機能的なところをいかに自分たちのくらしのレベルに繋げていくか、  
376-377 具体的に授業記録読んで、子どもの主張を受け止めて、個の関係をつくっていく、  
6 民主的なことが、やっぱり大事、14 対人意識、公正に判断していく  
19 社会科を通して**生き方**、生き方も学んでいますし、生き方を高めている  
22 自分の見方考え方、考え進め方、追究の仕方も見直す  
24 共有化されれば、柴山級自体の文化風土、学び合う創造的雰囲気

情意面の成長（寛容、協同など）市民としての資質形成をねらいにした社会科  
学びの姿勢・態度形成を図る。

A 20120602「くらしを守る人々－堀川の交通安全－」授業検討会

東部教育事務所:広田積芳 授業者:柴山秀範

- 1 広田: まず最初に昨日の授業を見ておられない先生もおられると思いますので、簡単
- 2 に昨日の授業のことを触れてなぜ、今日、こういう授業をしたか、昨日の何を
- 3 とらえて今日どんなねらいで、授業を行ったか構想の方を触れてもらって、で、
- 4 今日どう思っているか、この3点について短く。お願いします。
- 5 柴山: 柴山です。今日、有り難うございます。資料の方に、板書記録あるかと思いま
- 6 す。授業記録間に合わなかったもので板書記録のをせさせていただきます。

7 昨日は、24 番のお子さん、牧野君です。牧野君が警察署はいらないと、なぜな  
8 ら堀川交番のように6人でも広い堀川校区を守れているし、宮田所長さんも  
9 大丈夫だと言っておられた。だけど実際、去年1056件の交通事故が起きている  
10 安心できないな。1日に3件ぐらい起きる計算になると、で、警察署の方には  
11 300人ほどの人が働いているとおっしゃっていたから、その300人という、分解  
12 して交番の数を増やした方が交通事故を減らせるのではないかと、安心できるの  
13 ではないのかということをおっしゃっていたから、その300人という、分解  
14 その話を聞いて、21番の平井さんなんですけれども、このときに聞きたい  
15 ことがあったんだけど、聞けなかった。その交番の前まで行ったんだけど  
16 ども、恥ずかしくて、今度は友だちと行きたいと発言してくれました。3番目  
17 は、2番の池田さんなんですけど、調べてみると、堀川防火、自主パトロールが  
18 ある。そこには337人いて、いろいろ工夫して、私たちを守って下さっている、  
19 そういう人たちに感謝をしたいという話から、地域には防犯パトロールの方  
20 や交通指導員の方など、それから校長先生も含め、いろんな人が私たちの交通  
21 安全を守ってくれているということが、地図でこう作ろうとしながら、たくさ  
22 んいるんだということが明らかになってきました。で、1時間目最後、28番の  
23 三上さんが、だから、交通事故が減ってきているのではないかと、ということ  
24 でした。で、しきりなおした2時間目は、じゃあ最初に発言した牧野君が、仲間  
25 の1時間目の話をきてどう思っているのかなあ、ということをおっしゃりました。  
26 すると、もっと警察はいらないとこの気持ちが強くなっていった。防犯パト  
27 ロール、防犯の地域の方がいるから、やっぱり警察署はいらんんじゃないの  
28 かと考えるようになりました。で、最後にだけ岡田君という7番のお子さん  
29 が、警察署は必要だと思う。今日も言っていたんですけど、警察署にしかできな  
30 いことがあるはずだ。あるからには意味があるのではないかと、ということ  
31 を言って終わりました。で、この授業では、やりながら、観念的というか、数字と  
32 いうか、概論的なことばかりになっていて、なかなかそう考えるその子の考え  
33 が響いていないのかなあという風に思ったので、今日、その本当に、例えば24  
34 番というのは、西村君なんですけれども、あつ20番のお子さんが、西村君が危  
35 ないと思っているだろうと想定したんですけど、彼は堀川小学校の横に  
36 交通量のとても多い場所がある。そこには横断歩道もあるんだけど信号機  
37 がない、そこを普段の時はビュンビュン車が通る、渡ろうとしても止まってく  
38 れない、え：、一回見たと言っていたのは、途中まで渡った目の前を車が通り  
39 過ぎていく、それから街路樹が立っていて、子供の目線で身を乗り出さないと  
40 向こうまで見えないんですよ、あの、ずっと街路樹のほうが横から見ると( )  
41 あるんですけど、縦から見ると重なって見えなくなっている。そういうこと  
42 から、本当に交番、交番が、昨日の話の続きで増えてほしい、と願っている彼の

43 その思い、心を聞き合うことで、一人一人が自分の暮らしから今、どういう風  
44 に、自分の暮らしはどうか、ほかにも危ないところがあるよとか、いやそんな  
45 にいっぱい危ないところがあるんなら、交番だけでは足りないから地域の人にも  
46 もっと手を借りなきゃてはいけないじゃないかとか、やっぱり警察署っていう  
47 ものは必要なくなるんじゃないか、よりも交番を増やした方がいいんじゃない  
48 のか、いやいやだけどやっぱりあるからには意味があるんだと思う、だから、  
49 そういう、いらないうつとっている子にも反論じゃないですけど、意味がある  
50 と思うからこそ、もっともつとあの警察署のことを調べたくなるというような、  
51 なんか、こう、昨日はあるからこそ、今日、まあ単元の新たなスタートじゃな  
52 いですけども、今日からやっぱり **自分のくらしをもとにして、もう一回歩み**  
53 **を膨らませていく** ような時間にしたいと思って、今日想定しました。で、西村  
54 君にはそういう可能性があるのだと思ってやりました。しかし、やってみたら  
55 全然違いました。え：やりながら、どうしていけないのかなあ、それを考え  
56 ていました。ただ、昨日の反省で **現実味というか切実感がない**、やはり本当の  
57 **子どもが経験したこととか、その子しかいえない出来事**を **つ**ていうものが何と  
58 か **引き出そう** と思って聞いてみたが、聞いてはなしと言われ、聞いてはなしと  
59 言われ、最後まで出てこなかったの、というので、やっぱり逆にないって  
60 うのはなんでかなあと考えたときに、これまで **追究をしっかりと支え** きていな  
61 かった、**太らせて** いなかったなかつたんだろうなあという反省とともに、じゃ  
62 一体どうして行けばよかったのかなと本当、も一回真剣に考えなきゃいけない  
63 なあと思っています。えっ、本当にたくさん教えて頂きたいなあという気持  
64 ちでいっぱいです。以上です。

65 広田：ということで、授業が終わったばかりですので、十分な振り返りも授業者は、  
66 今はできてないのも、まあ本音のところでは。逆にこうやって見ていただいた  
67 方々の方が客観的にとらえられる場合もありますので、ぜひ忌憚のないご意見  
68 をお聞かせ願いたいと思います。質問意見を取り混ぜて進めさせていただきます  
69 す。で、あのお名前と所属をお願いします。じゃあどうぞ。

89 広田：どうですか。西村君、ちょっと。何を意図して引っ張っていたかというあたり。  
90 柴山：便利だとか、時間が少ない、こう絵を描きながら近いとか。なんか、彼の頭  
91 中での出来事しかないような気がして、なんか確かにそうなんだけれども、彼  
92 がこう考える、なんかこういう風にきつとあるのかなあ、**経験に裏打ちされた**  
93 **考え** じゃないかなと思って、で言葉とその経験が同時に出たときに、周りの子  
94 もあつ、なるほどだからその考えなんだな、それならわかるっていう、フンわ  
95 かるけど、でも私はこうだな、やっぱりそうだなと **つながっていく** のじゃない  
96 かなと思って、ずっと聞いていたのです。

97 広田：＝しかし、あくまでも予想だった。(h)具体化を図るけども、やっぱり予想だ  
98 った。え、そこに、やっぱり柴山先生の授業展開の苦しさがまずスタートから  
99 あったということですね。では、  
119 もしかしたら同じじゃないかなあって。

158 柴山：え：はい西村君。西村君ですね、((ノートを読む))西村君が最初、警察署を  
159 なくしているんなところに交番をたてればいいという考えでした。なぜかとい  
160 うと、交通事故が起こって現場に近い交番から早く着きます。それに警察署に  
161 ある場所からもし遠かったら早く現場に着きません。それどころかたくさん人  
162 数がいる意味がありません。なので、警察署はいらないなあと僕は思い、その  
163 考えを昨日まで変えていませんでした。でも藤野君の一言で、今までの考えに  
164 プラスすることができました。その一言は、警察署にしかできない仕事がある  
165 という一言でした。そういえば、前、そんなことを考えたような気がしました。  
166 母から言われたことを思い出しました。警察署にしかない仕事のようなものが  
167 あるということを、警察署に110番をかければいいと思うということです。な  
168 ぜかかという、人数がたくさんいるし、まとまったでっかい場所だからです。  
169 そこに110番をかければ、いっきにほかの交番に伝えられるので、その分、時  
170 間が短くなると思うからです。予想だけど、それが警察署にしかできない仕事  
171 だと思えます。(0.3)で、裏に絵を描いているんですけど、なんか説明しても  
172 らったときに、h((前の拡大図を使いながら説明))ここから交番に110番の  
173 連絡が行ったらこう一本ずつ伝えなければいけない、なら、ここからここまで  
174 一気にぴっといけばいいんじゃないの、そうするとこういう玉突きみたいにな  
175 る。だけど警察署にかけたら、ここから一気にぴやーと広がる。すばやく、え  
176 っと( )いち早く情報が伝わる。これが警察署の意味なんじゃないのかって、  
177 彼は書きました。

178 広田：まあ、授業の最後の場面でえ：、まとめて、中央警察署にかければ2つ3つ  
179 というような話を図で整理したという話ですね、となると：まあ、この子にとっ  
180 ての学びは何だったか、今日得たものは何かと考えたときに、藤野君のを聞いて、  
181 ネットワークみたいなものをこれは必要ではないか、点在する交番ではだめなん  
182 じゃないかということを知ったということですね。そういった視点から、この  
183 45分間の中で子どもたちの学びというものは、いかがでしょうか。(0.4)そこ  
184 がなければ徘徊して、這い回って終わりましたという話になりますが、具体的な  
185 お子さんを取りあげて言って頂ければ有り難いですが、どうだったでしょうか。

186 (21.0) あっどうぞ。はい。

233 石坂：富山市立安野市立の石坂と申します。有り難うございました。今の方とつなが

234 るんですが、柴山先生は今日、ずっと子どもたちが想像上の話の中でお互いの(気)  
235 が迫ることに苦勞されていて、なんとか切実感をもった語りができるようにとい  
236 うことを心がけて話されているのがよく伝わってきたのですが、その時に聞いて  
238 いて、えっと警察署がいるかいらないかということに対して、警察署の実態を知  
239 らずにしゃべっているの、どうしても難しいと思うのですが、そういう時に今  
240 回の単元名である、くらしを守る人々、たぶん交通安全の話題ですが、くらしを  
241 守るということを軸にそこに立ち返してやるのが、なんかあの子どもたちが繋  
242 がれることとか、警察署がいらないという人たちも結局、なんでいらないとい  
243 っているかという、西村君が言うようなことを聞いてくと、より近くにより人がか  
244 けられて、スムーズに自分とここに駆けつけてくれることこそがくらしを守ること  
245 だという風に思っているわけですね、大きな支署があって自分たちがうかがい知  
246 れない実態があって、何か知っているものはくらしを守ることに繋がっていない  
247 んだと思っている、なるとその子、その子たちのくらしを守るっていうことはど  
248 ういうことなんだろうということがもうちょっと切り返しの中で明らかになっ  
249 てくると少しずつ繋がれていくのかなと感じたので、どういう風に話をかえたら  
250 よかったのかなあと：思いつかない、それって、どういう意味でくらしを守るの、  
251 早く着くということで、くらしはどう変わるのということに落としていくことを  
252 もって授業を進めていくと形が変わると思って聞いていました。

253 広田：結局、警察署の機能的なところをいかに自分たちのくらしのレベルに繋げてい  
254 くか、落とし込んでいくかということでもいいですか。

255 石坂：はい、え、子どもたちが自身も持っているくらしを守るというイメージをそれ  
256 ぞればらばらをもって、それを具体化したり共有化したりしていくことがより  
257 身近に繋がれることかなあと思っています。

258 広田：遠い存在ですよ、まあ行ったこともないし見たこともない、え、でも教科書  
259 や指導書はどこいったんかなあ一瞬(笑い) 思ってしまう分もありましたが。

260 柴山：はあ見てはいるんです。見てないことはないはずですし見ているし、そこにも  
261 図書もある、付箋も貼ったりもしているし、なんか、これは本だから、堀川交  
262 番じゃないから、はい、って言って、こういう仕組みなんだなあって、何とか  
263 課とか、何とか課とか、何とか課とかがあるのはわかるけど、例えばそれは資  
264 料だったら埼玉県のと何か警察署の話だから、本当かどうかはわからないって。  
265 はい、だからえっとそこの壁にも消防署を貼っているんですが、消防署の時に  
266 も自分がそう言っていたこともあるんですが、教科書見ているけど、わからん、  
267 わからんよねと言ったら、どうすると言ったら、見学行きたいというので行っ  
268 たということもあったです。そういうことあるのかなあと思うんですけど。

269 広田：本のことを鵜呑みにしないという風土があるということですね。だからなおさ  
270 らこれを警察署はまだ行ってないですね、行くということの一言は、さっき

271 おっしゃったように思いじゃないか、ということですね。そのあたりいかがで  
272 しょうか。まあ別の人でもいいですけど。(0.5)じゃどうぞ

329 柴山：そうですね。えっ：自分は、あの足りないのかもしれませんが、だから今日  
330 の授業で何かキーワードが出るとか、何かこういう考え方が出る、出たらよか  
331 ったのかっていうことよりも、書けなかった子は、**自分の追究が太ってなかつ**  
332 **た**というか、その充実していなかったから、何か、何か、何ていえばいいんで  
333 すかね、ふん、昨日でいえば、前田さんは110番の秘密をずっと調べて行って  
334 たんですね、みんなが交番のこととかどうや、結局、中味、だけど昨日は、先  
335 ほど話していたような授業だったんだけど、えっどれ？110番、その何で1・1・  
336 0なのかを調べてきてたんけれども、何か、それを調べて行って、友だちの話  
337 を聞いたら、そうじゃない、前h何だかなあ通信のシステムみたいな話が前出  
338 てきてことがあったので、だから、前田さんは、あつ、通信、つながっている、  
339 瞬間があるていうか、他の仲間のその追究というか、追究のものと、で、保田  
340 君なんかは、やっぱり、いるかいけないかというところでのっていけるし、え：  
341 まあこれについて行ける子どもはそれでええだけでも、でも、やっぱりその中  
342 には、自分のこれまで進んできたこととか、自分が手に入れてきた情報とかを  
343 組み合わせさせて書いている、だから僕は浅はかかもしれないですけど、こう書け  
344 なかったお子さんを見ていたら、で、その子たちの追究をこう書いている頁を  
345 見ているときに、単純に自分の解決したいことに対しての情報量とかが少なかつ  
346 たり、要するに、まあ追究がしっかりとしていなかったのかあと思っていま  
347 ました。＝だからそういう風に見えるというか、自分の考えが持てるということ  
348 ですけども、**自分の追究というものを、取組を充実させてあげなければいけな**  
349 **い**、それがさせられてこれなかったんだなあという事実を今日はつきつけられた  
350 なあという風に思っていました。

351 広田：付け足します。えっと、今のノートの書かせ方だと、これ×なんです。×です。  
352 **書けない子がいるという事態が×です。**それがなぜ書けないか、確かに追究が  
353 足りないということもあるかもしれませんが、授業の内容が伝わっていない、  
354 何を話し合っていたかわからない、どこがポイントだったか感じれないそ  
355 ういうこともあります。**ですから**、書けない子を、(わた)あの場合によつて  
356 は、集めて、何を書けばいいかわからん人おいでって、集めてですね。黒板の  
357 前でもう一回振り返ってみる、そうすると書いている子もあつそういう授業だ  
358 ったんだって、書きながらですね、学び直しをする場合もありますh。だから、  
359 もう一回たどって、こういうことこういうこと、例えば、今日の授業でしたら  
360 今日の一番ポイントはどこかということになると、多分、千葉の先生がおっし  
361 ゃったように、今まで調べて、調べずに仮説ばかり、空想ばかり言っていた、  
362 だから行くんだと(大きい)、で、これもう一回辿ってみたらこういう風に言っ

**コメント [m1]:** 広田氏が、授業を分析し、改善点を述べる。授業の内容を整理したり、ポイントを示すなどの教師の支援を明示している。

363 ているんですね。岡田君という人は、いらないとか言っている人は、ちゃんと調  
364 べてから警察署はいらないと言って欲しい↑。言って欲しい僕。言って欲しいと  
365 いうのはだれですか。いらないという人でしょう。アピールしてんですよ。呼び  
366 かけてんですよ。ちゃんと責任を持って言えよ、調べて言えとってんですよ。  
367 そしたら、ノート書くことない。違うだろって、ねっ岡田君((黑板を叩いて)),  
368 呼びかけているよ。保田君あなたに。ちゃんと調べていって欲しいって、言っ  
369 ているんだよって、今それでノートで、もう一回、自分が思っていることをだらだ  
370 ら書いているとすれば、それは×です。岡田君はちゃんとここにいらないと言う  
371 人がいますからね、昨日の授業でいますからね、それに対して、じゃどう書くん  
372 だよ。もしも今日ノート読んでですね。自分のことしか書いてないとすれば、も  
373 う一回書き直しです。えhもう一回、授業振り返ってですね。授業記録も一回読  
374 んで、どこが授業のポイントか絞って、場合によれば、教室全部もう一回振り返  
375 ってですね、岡田君の言い分に耳を傾けて、やるべきじゃないでしょうかね。そ  
376 れぐらい具体的に授業記録読んで、子どもの主張を受け止めて、個の関係をつく  
377 っていく、そこに学び合いといものが生まれると思っうんですね。ただ漠然と、授  
378 業は、はい時間が来たから、はい終わり。はいノート書きましょう。そんなもの  
379 じゃないはずですね。確かに一見、乱暴な、あのノート配って書かせ方している  
380 かもしれませんが、実はハード的にはそうかもしれませんが、ソフト的にはそう  
381 いうことをしていかなければ**学ぶことが太らない**と思います。ちょっと、言い過  
382 ぎましたでしょうか。補説。h自分でしゃべりすぎまして、時間が来ましてとい  
383 うのもおこがましいんですが、一旦、柴山級の協議をここで、あの止めさせてい  
384 ただいて、もしもまた戻る必要がありましたらお受けします。

B

1:18:43 指導助言

1 広田：少しお時間をいただいて、え：今日の授業をもとに、大事にしたいことに触  
2 れられたらいいかなと思います。今日の授業をもとに、まずちょっと桁のおき  
3 ところから：お話していこうかなと思いますが、あの、今ほど社会科という教科  
4 の特性、え：何だろう。やはり目標のところ、平和的で民主的な国家をつくる、  
5 え：その人間をですね、人間を形成していくところに目標がある訳ですが、普段  
6 の授業も、やっぱり**民主的なことが、やっぱり大事**でないかと個人的に思っうん  
7 ですね。となると、例えばですね、今日、柴山級で私、やっぱり社会科だな、いい  
8 なあと思ったのは、今ほどありましたように、**体制に流されずに**、藤野君とかあ  
9 の岡田君がですね(0.2)、この、え：昨日から牧野君や頭の切れそうな子らや、頭  
10 が切れるというのは感情が切れるというのではなくて、頭脳が冴えているような  
11 優秀なお子さんに対して、果たしてそれでいいのか、とくに私が感心したのは、

コメント [m2]: 個を育てる、関係をつくる  
ことに重点を置いている。

12 あの：え：と、ちゃんと調べてから言って欲しいというのは訳もわからずにいら  
13 ないとか、そういうこと言うと相手にとって失礼、または迷惑、そういう**対人意**  
14 **識も**あったのかなあと思う訳です。そこは、やはり、**公正に判断して、いく**社会  
15 科としては見過ごせない一言ではないか、で、先ほどでかい声を出したのはh、  
16 そのただでかい声を出しているのではなくて、何で自分は出したのかと思うと、  
17 そこそこが社会科の生命線だからじゃないかと思うわけですね。みんなにそれ呼  
18 びかけて、**公正に判断しようじゃないか**というすごい大事な場面だったと思う訳  
19 ですね。そう考えると、え：子どもたちというのは内容だけではなくて、**社会科**  
20 **を通して生き方、生き方も学んでいますし、****生き方を高めている**だろうと。岡田  
21 君の真意が、きちんと保田君に伝われば、**確かにそうだ**、自分は空想しか言っ  
22 ていなかったっていう風に、自分の見方考え方、そして、え：考え進め方、追究の  
23 仕方も見直すと思うんですね。そしてそれが共有化されれば、柴山級自体の**文化**  
24 **風土**と言いますか、あの：、**学び合う創造的雰囲気**ってものがぐっと高まると思  
25 うんです。次回からはですね、それは想像↑調べたの↓っていうh子どもたちか  
26 ら確認が入れば、一段と成長することになるかなあと思います。はい。で、そう  
27 いう意味では、私は非常に今日、柴山級の授業を見ていて、とてもあの社会科の  
28 本質、子どもたちをしっかりと見極めていて、よかったなあと思いますし、あと、  
29 え：場合によっては、もう学級が始まって2ヶ月も経った今頃になって、自分か  
30 ら調べると、そんなもん研究会、ねっ、今日に至る前にそれぐらいの子どもたち  
31 のレディネスをつくっとけよ、と僕は突っ込みたくなるとこなんですが、いいん  
32 です。今あるとこでやるしかないんです。え、もしかして、この学級もらったと  
33 きに、ほんとと社会科、座学だと思っている子も一杯いたかもしれないんですね。  
34 ましてや先生も今年担任したばかりですし、その今ある子どもたちのレディネ  
35 スの中で、少しずつ少しずつ力をつけていく、まさにこの三日間でですね、ここ  
36 で、あの：警察署はどうなんだって、いるのかいないのかって、事件は警察署  
37 で行われるんですねh、教室で起きているんじゃないんですね。現場があるんです  
38 ね、そう考えると、話し合いの2時間は無駄なようかもしれませんが、長いスパ  
39 ンで1年間考えたときに、まず足運ぼうって、**現場知ろう**と考えたときに、これ  
40 は一生涯のものであると思うんですね。そういう大きな**大きな財産**を柴山級は得  
41 たと思います。

**コメント [m3]:** 授業のねらいに情意面の成長や民主的な雰囲気づくり、風土の醸成がある。

**コメント [m4]:** 生き方を学ぶことを目的にしている。学び合う雰囲気

**コメント [m5]:**

本資料の作成にあたっては、実際の会話をVTRで撮影し、そのままの形で書き起こした。

表2 トランスクリプトで用いられる記号

連鎖



- [ 複数の話し手の音声重なっている場合、重なりが始まりが角括弧 ([ ]) で示される。  
] 重なりの終わりは角括弧 (]) で示される。
- [[ 二人の話し手が同時に話し始めるとき、二重の角括弧 ([[ ]) で示される。  
= 二人の話し手の発話が途切れなく密着していることや、一つの発話の中で話と話が途切れていないことは、等号で示される。

#### 間合い

(1.2) 音声途絶えている時間は丸括弧内にその秒数が示される。

(.) 0.2秒に満たない短い間合いは丸括弧内にピリオドを打った記号で示される。

#### 発話の表現上の特徴

— 強調された語はアンダーラインで示される。

: : 音が引き延ばされていることがコロンの数が多いほど長く引き延ばされている。

- 言葉が途中で途切れたことはハイフンで示される。

。 語尾が下がって区切りがついたことは句点で示される。文法上の文の終わりとは必ずしも対応しない。

, 項目を読み上げているときのように、イントネーションが続いていることはカンマで示される。

? 語尾の音が上がっていることは疑問符で示される。

↑ ↓ 極端な音調の上がり下がりそれぞれ上向き矢印と下向き矢印で示される。

語 大きく発話された語は太字で示される。

° ° 書が小さいとき、その範囲が° で臨まれることで示される。

>< 発話のスピードが速くなる部分は左向き不等号と右向き不等号で囲まれることで示される。

h 呼気音はhで示される。

.h 吸気音は.hで示される。

語 h 語 笑いながら話すときのように語のながに呼気が含まれる場合、語のなかにhを入れることで示される。

#### 注記

( ) 聞き取り不可能な箇所は空欄の丸括弧で示される。空欄が長いほど聞き取り不可能な時間が長い。

(語) 不明瞭な発音の場合、推測された語が丸括弧内に示される。

(( )) 注記は二重丸括弧内に示される。

鈴木聡志『会話分析・ディスコース分析』新曜社、2007, p. 15

本分析は、研究紀要や学習指導案などの文書資料、実践の観察、インタビューによる教師の語りを用いて、様々な視点から調査対象者に寄り添って分析を行った。また、調査対象者だけでなく、参観者や研究者の語りの内容も分析対象とし、調査対象者の考えとなる

根拠を分析する。このように、現場で使える知見や理論を見出すために、現場から得られたデータに密着した質的研究、リアルな教育の文脈の中で1つの事象を深く捉えていく事例研究を十分に行う必要があると考える。

表3 学習者の内面の表出を図る社会科授業のPDCAサイクル

	P計画	D実践	C評価	A改善
授業観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの生き方を考える人間的な成長</li> <li>・学習指導要領および教科書から内容選択, 問題に気づき, 発見, 追求, 解決策を考える問題解決学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題に対する一人ひとりの予想, 考えを出させる</li> <li>・学習者間の意見交換, 討論させる</li> <li>・授業者はそれぞれの学習の様子を観察し, 座席表に記入・発言が混乱, 全体で考える場合に適宜介入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者の発言内容や学習への参加状況の評価</li> <li>・発言内容における内面の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※人間形成における教科の守備範囲の問い直し。社会を対象化し, 見方を変えることの可能性</li> </ul>
授業の組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に身につけている社会の見方や考え方を問い直し, 自らの生き方を振り返ることができる教材, 内容の選定, 配列</li> <li>・常識的な社会の見方や考え方, 現在の自分のあり方を振り返らせ, 授業者が意図する社会の見方や考え方, 社会の中で生きる個人のあり方を追求するような指導過程の組織, 指導の流れ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・変化から評価</li> <li>・<u>見聞きしたところや体験など, 自分との関わりから発言できているか。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個や集団の人間の成長に必要な教育内容, 教材, 配列の変更, 改善</li> <li>・学習への参加を促す共通問題の選択</li> <li>・学習者が社会における生き方を考えることができる指導過程の改善</li> <li>・<u>学習者の状況・レディネスの詳細な把握</u></li> </ul>
授業の具体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示する情報・資料と, 日常の経験を結びつけるような発問や指示をつなぐ, 身近な社会的事象や具体物など日々の子どもの観察から, 個々の問いに対する反応を想定する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言内容や学習姿勢の変容を促す具体的な情報・資料をもとに改善</li> <li>・個への指名発問・指示, 教師が<u>寄り添う</u>位置や姿勢, 目線など指導技術の改善</li> <li>・<u>(発言に耳を傾ける待ちの姿勢)</u></li> <li>・<u>教室における支持的な風土の醸成 (寛容・思いやり・聞く態度)</u></li> </ul>

(峯明秀『社会科授業改善の方法論改革研究』2011, p. 58)